若き附中

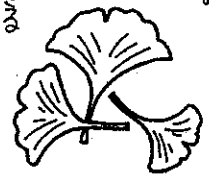
熊本大学教育学部附属中学校
学校だより
平成３０年１２月１日
第１４号
≪文責：高木≫

進路を決定する時

いよいよ3年生にとって、進路を決定する時となりました。（3年生は、来週から三者相談が実施されます。）

自分が、どの道にすすむのか、どの学校に進学するのか、15才というこの時期に、自分の進路について、あれこれと悩むのは、当然のことでしょう。しかし、これも人生。自分で自分の人生の進むべき道を決めることができる今の時代だからこそできるチャンスでもあります。

3年生がこれから行う決断は卒業後、どんな方向に進んでいくのかという重要な決断であることには、まちがいありません。



しかし、この中3での決断で、人生のすべてが決まってしまうわけでもありません。いろいろな道があって、その道の数だけ生き方があるのです。

ある道だけが、絶対に正解ということはありませんし、この道さえ進んでいれば絶対に安心なんてこともありません。どの道を選ぶかは重要ですが、その道で何をするかは、もっと重要なのです。

大切なのは、自分で選んだ道を後でふりかえった時、自分でこの道を選んでよかったと言えるようにすることです。人生、何がどう幸いするかわからないものです。思いどおりにならない事や挫折もまた自分を成長させてくれる糧となるものです。

前向きな環境

三年三組　出田

自分にとっては、遠い先の話のように思っていた「進路決定」そして「受験」がもうすぐそこに迫ってきました。自分の将来について具体的に考えると、自分が大人へと近づいていくことを実感します。進路決定にあたって、何を最優先に考えればいいのか、何が自分の将来のためになるのか、分からない時もあります。そんな時、私は同級生に「どう思う？」と意見を求めます。すると、私と同じように迷っている人やはっきりとアドバイスをしてくれる人、応援してくれる人と、いろいろな人がいます。一人ではないことに安心し、はっきりと考えを持っていることに感心します。そして自分の将来について、また考えることができます。同級生には、感謝の気持ちでいっぱいです。

このように、ポジティブな環境で学習をすることが、将来の目標に近づく要因の一つだと私は思います。目標を達成できるか不安になるときは、友達に相談して共感してもらうだけでも力になるのです。

今日の全校集会でも、宮本先生が、「入試は団体戦だ。」とおっしゃいました。3年生全体としても、ポジティブな環境づくりをして前向きに頑張っていきましょう。

来年へ向けて

一年一組　古賀

もう12月です。この四月に入学した私達にとって、初めのうちは見るもの聞くもの全てが新鮮でした。先輩方の団結力に圧倒されながら、とにかく、がむしゃらに毎日を過ごしてきました。つい最近になり、やっと中学生に慣れてきたような気がします。私にとって、この一年間を一言で表現するなら「感謝」です。附中生として初めて経験する色々な行事で熱く指導して下さった先生方や先輩方への感謝、そして励まし合って切磋琢磨してきた仲間達への感謝です。体育大会をはじめ色々な行事で先輩方の団結力に驚き、附中生としてのお手本にさせてもらいました。先輩方に少しでも少しでも近づきたいと思い、同じ学年の仲間達と顔を見合わせながらついてきました。

来年には新入生が入ってきます。まだ見ぬ後輩達から目標とされる、たよりにされるような附中生になりたいと思っています。一年生としての残り数ヶ月を大切に過ごすことで、もっともっと成長したいと考えています。

※ 11月30日に、3年生全クラスで、数学の授業を一時間ずつおこないました。思板に字をかくと「字が上手ですね」と生徒にほめられました。私も附中生と同じで、ほめられて伸びるタイプの人間です。